

キリストによって、愛のうちに（「召されている」という生き方⑦）

エペソ人への手紙4章11～16節



年間標語である「召しにふさわしく歩みなさい」(4:1)のみことばを鍵として、私たちのビジョンである「イエスキリストの弟子として神の愛に生き」、「互いに愛し合う交わりを生み出していく」ことについて学んできました。最後の二回は、そのために私たち教会がからだとして健全に機能していることが必要であることを、互いの関係から、今回は奉仕者の面から学び考えたいと思います。

「からだ」であるということ

“キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。” 4:16、新改訳第三版

① ひとりひとりの主体性

“それぞれの部分はその分に応じて働くことにより…” 16

② 相互のつながり

“組み合わされ、つなぎ合わされ…” 16

③ 結び目の存在

“あらゆる節々を支えとして…” 16

④ からだ全体としての成長

“からだ全体は…成長して” 16

“ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。” 1コリント12:12

“からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。… 一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。” 1コリント12:22、26

⑤ すべてを貫いている価値観

“キリストによって…愛のうちに建てられる” 16

“謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。” 1ペテロ4:2-3

<話し合ってみましょう>

- ・からだとしての教会は、肉体と同じように、その大きさ、質、関係、機能というように全体が成長していくことによって健康であることができます。私たちの教会においてははどうでしょう。